

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

当館は、持続可能な阿蘇地域づくりのために以下に取り組む。

1. コース世代を含む地域住民が気軽に博物館と対話し、ともに学び合い、地域素材の収集や社会の課題解決を共同で行う、よろづ拠点としての博物館を目指す。
2. 多様なパートナーシップのもと、ニューノーマル時代における DX を推進し、デジタルとリアルとの融合により新しく予想外な学びの手法を開発。阿蘇地域を題材に持続可能な社会や地球環境について学ぶ機会を提供する。
3. 観光防災 DX を促進し、IoT で手ぶらボーダーレスな自然・文化観光を実現。阿蘇地域における自然・文化体験面でのデジタル変革を牽引する。
4. 阿蘇地域特有の災害(水害・地震・火山)の研究を進め、その情報を多様な価値観をもつ人々へ提供し、性別や年齢、障がい、国籍、出自などに関わらず全ての人が安心安全に阿蘇の観光を楽しめる土台づくりを行う。(観光防災 DX の実現)
5. SDGs目標達成による、当館の自主運営の強化を行い、持続可能な阿蘇地域社会へ貢献できる体制を構築し、世界をリードする阿蘇ユネスコジオパークづくりに寄与する。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に◎)	SDGsに関する重点的な取組み	指標
◎環境 ◎社会 ◎経済	<p><b><u>[Target1.5, 11.5, 11.b, 12.8, 13.1, 13.3]</u></b></p> <p>阿蘇地域は 2012 年の九州北部豪雨の水害、2014 年から続く中岳噴火、2016年の熊本地震と災害が頻発している。これらジオハザードへの対策は重要な社会課題であり、解決には地球科学への理解増進が不可欠である。そこで、当館では、上記災害の経験の他、産官学のパートナーシップを活かし下記に取り組んでいる。</p> <p>① 減災研修プログラムの開発            ② 減災研修プログラム参加者の拡大            ③ 当館ガイドの減災知識の向上およびレスキューや医療機関との安全管理方法の検討            ④ BCP/DX の検討(発災時の外国人対応も含む)            ⑤ 国際的な情報発信(多言語化による館内情報発信やユネスコと紐付けた SNS での情報発信など)</p> <p>上記の取組みにより、地域住民や来訪者のレジリエンスおよび適応能力を強化することでSDGs1, 11, 12, 13の達成や仙台防災枠組に寄与する。</p> <p>また、ICTを活かした観光や教育のDXの推進とユネスコジオパークのネットワークを活かし、日本国内にとどまらず国際社会へ知見の共有をオンラインで行い、国際的なレジリエンスの強化も目指す。</p>	<p>① 減災研修プログラムの開発数            令和 3 年度:開発開始            令和 4 年度:1件×3回(実証)            令和 5 年度:3件</p> <p>② 減災研修プログラムの参加者数            令和 3 年度:0人            令和 4 年度:100人            令和 5 年度:500人</p> <p>③ 検討会およびガイド研修            令和 3 年度:4回            令和 4 年度:4回            令和 5 年度:4回</p> <p>④BCP の策定            令和 3 年度:リスクの検討            令和 4 年度:関係者との協議            令和 5 年度:BCP 策定</p> <p>⑤国際的な情報発信            令和 3 年度:12件            令和 4 年度:12件            令和 5 年度:12件</p>
◎環境 ◎社会 ◎経済	<p><b><u>[Target11.4]</u></b></p> <p>阿蘇地域は、阿蘇カルデラと活火山、そこに生きる人々の暮らしの世界的な価値が認められ、2014 年にユネスコジオパークに認定された。その際に指定された保全すべきサイト(自然・文化遺産)は33箇所あり、観光的な価値だけでなく、過去の自然災害を語るものから、大切な水資源、阿蘇地域の人々のルーツを語る上で重要なものなど多岐にわたる。</p> <p>当館は、これらを次世代へ継承するため阿蘇ジオパーク推進協議会や阿蘇エコツーリズム協会、阿蘇山上ビジターセンター、阿蘇青少年交流の家などと連携し、下記に取り組んでいる。</p>	<p>① 自然・文化遺産のデジタルアーカイブ化            令和 3 年度:5件            令和 4 年度:10件            令和 5 年度:20件</p> <p>② 博物館の 3 次元化            令和 3 年度:2階展示スペースの3次元撮影(デジタルミュージアム化)の実施:1件            令和 4 年度:デジタルミュージアムを活かしたコンテンツ開発:1件</p>

	<p>① 自然・文化遺産のデジタルアーカイブ化による今なくなりつつある文化の保存と地域文化の継承</p> <p>② 誰でもいつでもどこからでも、阿蘇地域の自然・文化遺産にふれることができる阿蘇火山博物館のデジタルミュージアムの確立</p> <p>③ 自然・文化遺産の保全に関するオンラインツアーの配信</p> <p>④ 当館ガイドや関係者の保全意識の向上</p>	<p>令和 5 年度:デジタルミュージアム公開に向けた検討:1件</p> <p>③ 自然・文化遺産の保全に関するオンラインツアーの配信 令和 3 年度:12回 令和 4 年度:12回 令和 5 年度:12回</p> <p>④ 保全研修数 令和 3 年度:4回 令和 4 年度:4回 令和 5 年度:4回</p>
<p>○環境 ◎社会 ◎経済</p>	<p><b>【Target 4.4, 8.2, 12.b】</b></p> <p>当館は 2018 年に、阿蘇市・NEC と包括連携協定を結び、従来型の博物館ではなく、最先端技術を活かした観光防災 DX を推進している。2020 年には、文化観光推進法に基づく拠点施設に認定され、ICT×地球科学×地域文化による文化観光を推進しており、2030 年の阿蘇地域におけるよろづ拠点化を目指している。</p> <p>この枠組みの中で、阿蘇地域におけるデジタルシチズンシップ教育や ICT スキルの向上、文化観光による観光イノベーションを目指し、以下に取り組んでいる。</p> <p>① 当館のガイド事業をモデルケースとした観光防災 DX を推進し、阿蘇地域全体の IT スキルの向上に寄与する。</p> <p>② IT 技術を用いた宿泊連携型のサステイナブルツーリズムやワーケーション開発を実施。</p> <p>③ 上記取り組みによる阿蘇地域の持続可能な観光業への貢献(当館来訪者数の増加による地域経済への経済波及効果など)</p>	<p>① ガイド事業の DX 率 令和 3 年度:30% 令和 4 年度:40% 令和 5 年度:60%</p> <p>③ 当館ワーケーションエリアの利用者数 令和 3 年度:1万5千人 令和 4 年度:2万人 令和 5 年度:3万人</p> <p>④ 当館、来場者数 令和 3 年度:30万人 令和 4 年度:40万人 令和 5 年度:50万人</p>

## <パートナーシップ>

### 【パートナーシップ】

- ・熊本大学との包括連携協定
- ・阿蘇市・NEC・阿蘇火山博物館による「安心安全かつ持続可能なまちづくり」に向けた包括連携協定
- ・モンタナ州立大学附属ロッキー博物館との姉妹館提携

### 【連携先】

#### ①学術面

京都大学火山研究センター、日本火山学会、福岡大学

#### ②博物館など

熊本モンタナ自然科学博物館協会(御船町恐竜博物館、熊本市博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、モンタナ州立大学附属ロッキー博物館、熊本県ネットワークセンター)、阿蘇学芸員会、全国科学博物館連絡協議会、全国科学館連携協議会、熊本県博物館連絡協議会、日本ミュージアムマネジメント学会、NPO 法人阿蘇ミュージアム

#### ③国際連携

熊本県国際課、熊本市国際交流会館、阿蘇ジオパーク推進協議会

#### ④マスメディアとの連携

通信社(共同・時事通信)、放送局各社(NHK 他在熊民放 4 社)

#### ⑤防災・減災

気象庁、熊本大学(くまもと水循環・減災研究教育センター)、阿蘇火山防災計画による現地災害対策連絡本部に指定

#### ⑥文化財関連

熊本県文化協会、熊本県文化財保護協会

#### ⑦教育関連

熊本県文化課(登録博物館)、熊本県阿蘇教育事務所、阿蘇郡市教育委員会、国立阿蘇青少年交流の家

#### ⑧環境関連

阿蘇エコツーリズム協会、阿蘇山上ビジターセンター、環境省草原再生協議会

- ・「SDGs に関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
- ・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
- ・「パートナーシップ」には、企業や NPO 法人、行政など関係機関との連携があれば記載してください。

○ SDGs に関する重点的な取組み及び指標に係る進捗状況(※更新の場合のみ。)

○登録状況:第 期登録(登録年月日: 年 月 日)

○登録番号: 号

<SDGs に関する重点的な取組み状況、前期の指標及び実績>

三側面 (分野に◎)	取組みの状況	前期の指標	実績
○環境 ○社会 ○経済			
○環境 ○社会 ○経済			
○環境 ○社会 ○経済			

・「登録状況」及び「登録番号」を記載してください。

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。